

これぞ、「多様性」の源泉

阪大の男女共同参画!!

～「知ってる?知らない?」「意外にやってる!?いや、まだまだ?」



すべての構成員が その能力・個性を 発揮できる大学を目指して



副学長(男女共同参画担当)
瀧原圭子

これまでも大阪大学においては、男女共同参画推進オフィスを中心として男女共同参画に関する多くの実績を重ねてきましたが、学問による調和ある多様性を旨とする「世界適塾構想」の実現のためには、大学のすべての構成員のダイバーシティが不可欠であり、より全学的な取組として教職員・学生に貢献できるよう展開していく必要があると考えています。

総務省「科学技術研究調査」によれば日本の女性研究者比率は14.4%となっており、主要国の中では最低レベルにあるのが現状です。大阪大学においては、女性教員の在職比率は13.5%と日本全体の比率よりも低いものの、平成25年度の女性教員の採用比率は23.0%と飛躍的な増加を遂げることができました。

グローバル化により国内外との競争が激化している中で、斬新な研究や魅力的な教育環境を生み出し、また、学習・就労環境の整備を進める上で、女性が果たす役割は大きいと考えます。私は、本年度10月から男女共同参画担当の副学長に就任いたしました。今後、これらの状況を踏まえ、皆様からのご意見やアドバイスをいただきながら、大阪大学におけるさらなる男女共同参画の推進に尽力していきたいと思っています。

大阪大学では、平成18年4月に制定した「多様な人材活用推進に関する基本理念」において、女性をはじめとする多様な人材が活躍し教育研究に貢献できるキャンパスづくりを宣言し、男女共同参画に取り組んでいます。それから4年余を経た現在、女性教員数は緩やかながら増加傾向にあり、学内の保育施設も3か所に増えました。しかし、その一方で職階等による偏りや学内保育施設における待機児童の解消など、未だ残る課題もあります。

すべての教職員の皆さんが自らの望む道を進みつつその力を発揮できるよう、そしてその姿に後進が続くことができるよう、調和ある多様なキャンパスづくりがこれからますます求められることとなりますので、皆様のご意見に耳を傾けながら取組を推進していきたいと思っています。



理事補佐(男女共同参画担当)
沖田知子

大阪大学における「男女共同参画」の取組

大阪大学では、多様な人材の積極的な活用が教育・研究基盤の持続的な発展に必要な不可欠であるとの認識のもと、すべての構成員がその能力と個性を最大限発揮できる大学を目指しています。

今号では、我が国最大の潜在力とも言われる『女性』の力を十二分に発揮するための取組、「男女共同参画」について、大阪大学における取組の一端をご紹介します。

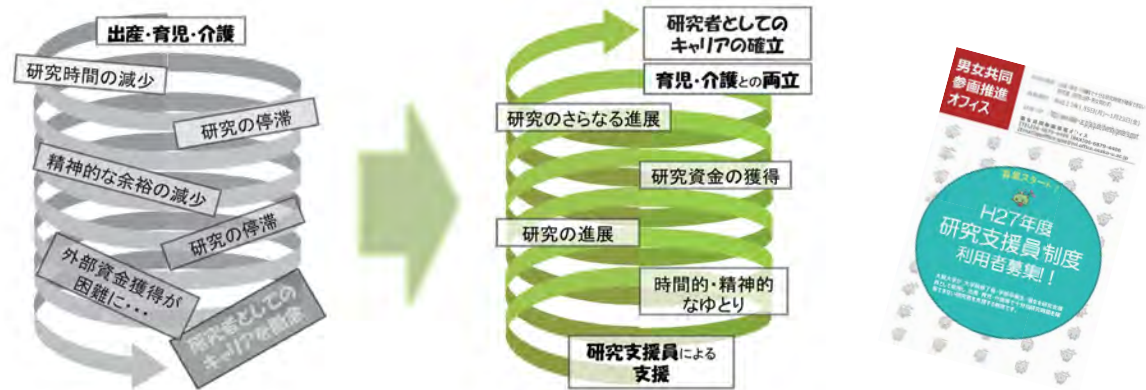
研究支援員制度

研究者が出産や育児、介護といった様々なライフイベントに直面した際に、そのことが「研究時間の減少」→「研究の停滞」→「精神的な余裕の減少」→「さらなる研究の停滞」→・・・→「研究者としてのキャリアを断念」といった負のスパイラルの入口とならないよう、「研究者としてのキャリアの確立」と「研究と育児・介護の両立」の双方を支援するため、学生等を研究支援員として配置しています。

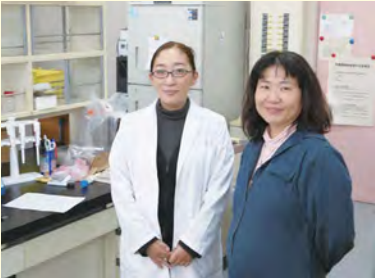
この制度は、研究者に対する支援が目的であることは勿論なのですが、それ以外にも、研究支援員が、研究者の支援を通じて研究現場に触れ、研究活動に携わることで、自らの将来のイメージを思い描く契機とすることも目的としています。

平成19年度の制度創設以来、大阪大学独自の改善と充実を重ね、現在では研究分野の別は勿論、男女の別を問わず、育児や介護等で研究時間が十分に確保できない研究者に対して支援を行っており、制度創設以来“延べ194人”の研究者を支援してきました。

来年度からは、第2子以降の育児、さらには、育児と介護の双方に携わる研究者への配慮を充実させていくこととしています。募集期間にかかわらず、随時ご相談を受け付けておりますので、男女共同参画推進オフィスまで是非ご連絡ください。



私も使っていました

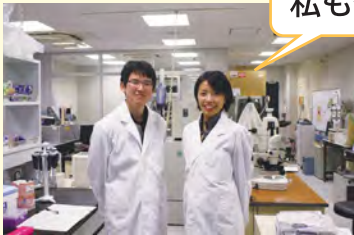


医学系研究科の助教だった頃にこの制度が大阪大学にできました。ちょうどその頃は2人の子育てと大学での研究や教育が重なり、今思い出しても一番苦しい時期でした。幸いできたこの制度を利用させていただいたおかげで、何とか困難な時期を乗り切ることができたと思います。そして、研究を諦めずに続けることができたおかげで、この夏から千葉大学の「理系女性教員キャリア支援プログラム」によって念願の独立の夢を叶えることができました。

研究は継続することが大切です。しかし、様々な事情で独力では乗り越えられない時期が女性に限らず誰にでもあると思います。各大学のこういった研究者支援の取組は、育児や介護に携わる研究者にとって心強い支えとなります。いただいた支援に深く感謝するとともに、本制度の継続とさらなる発展を願っています。

(千葉大学理学研究科生物学科教授 浦聖恵)

私も使っています



子どもたちが待っているため定刻になれば職場を離れざるを得ず、限られた時間で会議と実験をこなすのは非常に難しいのが現状です。ここを是竹君がフォローしてくれていることで、中断することなく研究を進めることができます。是竹君との関係は小さな共同研究のような感じで、視点が違うからこそ新しい意見も出てくる。研究中断という焦りがない分、自宅での時間も大切にでき、また、心の安定は新しいインスピレーションにもつながっており、良いスパイラルが構築できています。

(工学研究科特任助教(常勤) 丸山美帆子)

私は支援をしています



研究支援員として丸山先生の研究補助を行っています。自分の専門分野とは異なるのですが、先生の丁寧な指導のおかげで、仕事として以上に1つの研究として興味深く取り組むことができています。また、先生の姿からは、限られた時間の活用法など、4月からの社会人生活に生きる様々なことを学び取ることができ、日々有意義で濃密な時間を過ごしています。

(工学研究科博士前期課程2年 是竹竜馬)

学内保育園

吹田キャンパスに、たけのこ保育園・まきば保育園の2園を、豊中キャンパスに、まちかね保育園を設置し、最大185名の乳幼児を受け入れています。

また、来年度からは、要望の多かった病児・病後児を受け入れる保育室を吹田キャンパスに設置する予定です。



①たけのこ保育園



②



③

②まきば保育園

③まちかね保育園

臨時託児室設置支援 *it's new*



育児に携わる教職員が学会や研修会に参加する際に、大きな障壁となる“保育の確保”。それを解消するために、本年度から臨時託児室の設置に対する援助と施設使用料の免除を行っています。

初年度となる本年度は10件の会議等を採択しました。来年度も実施する予定です。

- 日本労働法学会第127回大会(5/25)
- 土木学会全国大会第69回年次学術講演会(9/10～12)
- 第54回日本核医学会学術総会(11/6～8)
- シンポジウム「保育と行動経済学～学内保育園を通じて～」(11/15)
- ふたごフェスティバル2014(11/2)
- 第108回関西形成外科学会学術集会(12/21)等

女子中高生のための関西科学塾

現在の大阪大学を担う教職員だけではなく、次世代を担う中高生、特に理系への進路選択を迷いがちな女子中高生を対象として、大阪大学・京都大学・神戸大学・奈良女子大学・大阪府立大学の5大学が連携して、毎年、関西科学塾を開催し、理系への進路選択の後押しを行っています。

この関西科学塾は本年度で9回目を迎え、過去に参加した生徒が主催の5大学に入学し、入学後は運営側として関西科学塾に関わるといった好循環が生まれつつあります。



参加者から運営側へ～OGの目から見た関西科学塾～



今回、関西科学塾の運営を手伝う中で、参加者の高校生と5年前の自分とを重ね合わせて、関西科学塾に参加した体験が今の自分に繋がっているんだと感じ不思議な気分になりました。これからの中高生のためにも、関西科学塾が今後も続いて欲しいし、そのために自分も何らかの形で関わっていきたいと感じています。

(理学部化学科4年 稲益礼奈)

そのほかにも色々な支援を行ってます、詳しくはHPをご覧ください

ロールモデル集



セミナー・シンポジウム

ワーク・ライフ・バランスや育児、介護、さらにはそれにまつわるさまざまな題材をテーマに男女共同参画シンポジウム／セミナーを開催しています。



電動さく乳器のレンタル

妊婦検診・サポート外来の予約支援

男女共同参画推進オフィスより

今回は、男女共同参画推進オフィスの取組(の一部)を紹介させていただきました。ただ、女性教員の在職割合が13.5%(cf. 学部入学生的女性割合:32.3%)であることから分かりますとおり、まだまだ取組は十分ではありませんし、何よりオフィスの取組だけで男女共同参画が図られる訳でもありません。

性別を問わずすべての構成員がその能力と個性を発揮することができる大学づくりを進めていくためには、全ての構成員がそれぞれの立場で、さらに言えば、職場だけではなく家庭においてもそれぞれがそれぞれの立場で、男女共同参画の理念を共有し、自らが行動していくことが必要となりますので、皆様のご理解とご協力を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

問合せ先：男女共同参画推進オフィス
電話：06(6879)4405(内線4405/9573) FAX：06(6879)4406
E-mail：geoffice-gea@ml.office.osaka-u.ac.jp